

常に「人財」を基本においた体制づくりを進める



(株)エスデイ製作所代表取締役社長

斉藤 一秀

「お客様は当社の最高のパートナーです」と言い、顧客に対する感謝の思いを語った斉藤社長。「エスデイ製作所」の人間にはない視点から問題点が浮き彫りになるかもしれない——社長は顧客の声を誠実に受け止める。また、社長は社員たちの様子にも心を配り、社員の意見や考えに真摯に耳を傾ける。社長がこうした姿勢でいるのは、すべてにおいて「人が基本だ」と考えているから。人の和が可能性を無限に広げていく——そのことを社長は知っているのだ。

(対談記事は*～*頁に掲載)

今を活かす 今を生きる

株式会社 エスデイ製作所

【本社工場】

茨城県常総市馬場 442-2

TEL 0297-43-7181 (代)

URL: <http://www.sd-ss.com/>



「お客様との信頼関係こそ当社の財産。
これからもお客様第一の姿勢で
ものづくりを究めたいと思います」

転造丸ダイスの製作、各種切削工具の再研磨や修正を手掛ける「エスデイ製作所」。独自のノウハウと経験を活かした「短納期・高品質」を掲げる同社は、日々変化する顧客のニーズ、市場の要求に迅速かつ的確に responding。技術の研究開発などにも高い意識でチャレンジし続ける同社を、三ツ木清隆氏が訪問した。

代表取締役社長 齊藤 一秀

「エスデイ製作所」創業家に生まれる。父親の後を継ぐべく同社に入社し、二代目代表取締役社長に就任。生産性向上、付加価値の追求、作業効率化など果敢に改革を断行し、同社を大きく成長させてきた。現在も、より高みを目指して奮闘中だ。

三ツ木 「エスデイ製作所」さんの歩みからお聞かせ下さい。

齊藤 当社は現相談役の齊藤勲が、1966年に千葉県松戸市に創立しました。当初はソリッドダイスの製造を手掛けていたんです。ソリッドダイスとは時計やカメラ用の精密小径おねじのねじ切工具のこと。業界ではソリッドダイスを“SD”と略して呼んでいたことから、当社を「エスデイ製作所」と名付けたんです。その後時代の流れと共に主力製品も変化していきました。1972年に千葉県流山市に移転し、同時に転造丸ダイスの製造を開始。1981年には工場拡大のため現在の場所に移転しました。そして1987年より、親会社「オーエスジー」のサービス工場として、親会社の主事業である超硬切削工具の再研磨事業を開始し、現在に至っています。

三ツ木 勉強不足で恐縮ですが、再研磨事業について詳しくお聞かせ下さい。

齊藤 簡単に説明しますと、「オーエスジー」が製造しているエンドミル、タップ、ドリルなどの切削工具も、当社の転

造丸ダイスも、主に自動車、造船、航空機用の硬度の高い部品を造るためのものです。切削というだけに工具には刃がついており、この刃の素材そのものが非常に高価。工具も使い捨てすればコストがかかりますし、かといって使い続ければ刃が痛みメンテナンスが必要になります。そこで当社が刃を研磨し、再び新品同様の性能を引き出すというアフターフォローを行っているわけです。

三ツ木 なるほどリユースですね。かなり特殊な技能が必要だと思うのですが。

齊藤 そうですね。ただ実は、同業者は多いんですよ。「オーエスジー」は世界の主要な国や地域に拠点を置く業界でも有名なメーカー。それだけに協力工場などの認定にはかなり厳しいチェックが入ります。当社はその中でも最も難しく付加価値の高い製品を扱っていますから、技術力には自信を持っています。当社の強みですね。

三ツ木 不況下で厳しい経営を迫られる企業が多い中、御社は成長し続けていらっしゃる。こうして40年以上第一線

で活躍してこられた要因とは何だと思われますか。

齊藤 やはりお客様との信頼関係が崩れなかったことが大きいと思います。当社は短納期・高品質をモットーとしています。どんなにタイトな期日でも、お客様とお約束した以上、守らなければならない——その気概ですね。一方で、ただ仕事が早いだけでは価値がない。お客様に満足していただけるクオリティーの高さを維持することが肝要です。そして、時代の変化に俊敏かつ柔軟に対応して事業部門を確立し、同時に製品アイテムも増やしてきました。これによりお客様に多くの選択肢を提供することができ、お客様の満足度を高めていったんです。また社内では省力化による生産性や付加価値の向上と共に、販管費などのコスト削減にも成功。そうして努力している姿があるから、お客様は当社に信頼を寄せて下さっているのだと思います。

三ツ木 なるほど。不況に強い企業はお客様とのパイプが太いんですね。

齊藤 お客様の目は厳しいですが、大変

常に進化する工具業界において 最高の品質とサービスを提供する



ありがたいものです。たとえば価格、納期、技術、サービス等様々な面で当社と他社を比較し、客観的にご指摘下さいます。それに、主要ユーザーの方向性や生産計画などのフィードバック、また受注の協力を快くいただける最高のパートナーでもあり、心から感謝しています。

三ツ木 先ほど企業努力のお話がありましたが、短納期・高品質を守るためには現場の力がですね。また経費削減は全社一丸とならなければ実現は難しい。やはり企業は人が基本だと思うのですが、いかがですか。

斉藤 仰るとおりです。私は、社員の様子を把握するためにできる限りコミュニケーションを取るようにしているんですよ。様子がおかしいと思ったら、その人の上司に何か悩みごとがないか聞いてみてほしいと話すんです。問題が大きくならないうちに社員の意見や思いを汲み取り、問題解決を図るよう心掛けています。また、報奨金制度を設けて社員の頑

張りに報いることができるよう体制を整えました。こうして社員のモチベーションを高いところで維持していく——よし頑張ろうとやる気を出せる環境が大事だと思います。

三ツ木 お話も尽きませんが、今後の展望をお聞かせ下さい。

斉藤 今後も、先ほど申しました「短納期・高品質」にこだわりを持ち続け、「オーエスジーグループ」の一員としてお客様

最優先の役割を果たせるよう心掛けていきたいと思っています。また将来的には、“社会的責任”を使命として掲げられる会社になりたいですね。たとえば、再研磨部門をより強化することで資源のリサイクル率を高めたり、エネルギー対策として、風力発電や電気自動車の製造などに貢献できる工具を提供したり。当社の高い技術力で実現したいと思います。

(取材／2010年2月)

「高度な技術と高品質な製品は 弛まぬ努力が生み出すのですね」

「設備投資を行うと決めた時には、実は新たな機械を揃えるゆとりがなかったそうです。そこで斉藤社長は古い機械を改造することに決めたそう。このエピソードだけでも『エスデイ製作所』さんが優れた技術者集団であることが分かりますね。今後のご活躍をお祈りしています」



ゲスト 三ツ木 清隆

明日を切り開く経営者たち

その 戦略と視点

CNC機による加工を主体とする「エスデイ製作所」。CNCとは、簡単に言うとコンピュータを利用した数値制御のこと。工具をつくるにも設計図が必要だ。とりわけ、その工具を使って造られるものが精密であればあるほど、設計図の重要性は増す。設計図を数値化・座標化し、立体物を短時間で製作できるようにした機械がCNC機である。

日本の製造業の発展は、人の手が支えてきたと言われる。しかし、人の手にいくら可能性が無限大にあっても、生産性は限られる。「エスデイ製作所」では、作業効率化、生産性、付加価値の向上を狙って、CNC機導入を決定した。しかし「職人た

ちから大反発がありましてね。説得には苦労しました」と当時を振り返り苦笑いの斉藤社長。それでも実際に稼働してみると、その戦略の正しさに誰もが納得したという。顧客第一の姿勢を大事にしてきた同社は、こうしてさらなる顧客ニーズへの対応力を強化したのだった。

緊急品や耐久性の向上、切削が難しい素材の加工など、顧客側が抱える問題にも柔軟に対応し、コストダウンの提供なども行う同社。顧客の喜びの声を聞いた時「この仕事のやり甲斐を感じます」と社長は言う。それが原動力となり、同社はますます質の高い仕事を手掛けていくのだ。